



題字は栗山流祖

発行
〒760-0071
高松市藤塚町2丁目
10-15
臥風流吟詠会本部
事務局

新春に思う



会長 徳田 寿風

新年明けましておめでとうございませう。

会員の皆様には、お健やかに住き新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年(令和7年)は日本だけでなく世界の各地で異常気象となり、日本では「四季」がなくなり、春と秋が短く、夏と冬に二極化する「二季」が進んでいると。四季のある国に生き、四季の風情を五感で楽しみ、折々の漢詩を吟じている私達にとつて何とも侘しいこととございます。毎年、臥風流の定期的な諸行事が全て計画通り開催できていますこと、これ偏に会員皆様方のご協力、ご支援の賜であり厚く御礼と

感謝を申し上げます。

さて、昨年のビッグニュースは、十一月十一日、東京日本武道館で開催された「全国吟剣詩舞道大会・合吟コンクール」に於いて、臥風流女子チーム、二十五名が見事準優勝の栄冠に輝いたことでしょう。

六月の結団式より本番まで、わずか五回の練習でしたが、日本武道館の舞台で心をひとつにして一杯の力を出し切り、出場チーム五十一番中、第二位という素晴らしい成績を納めました。出場者はもとより臥風流にとりましても栄誉であり、久しぶりの快挙でございます。また、香川県吟剣詩舞道総連盟として出場した男子チーム・西讃連盟女子チームも入賞を果たしました。三チームの皆様おめでとうございます。

七月二十七日には、三木町文化交流プラザで全国高等学校総合文化祭が開催されました。臥風流会員を中心に構成された「香川ドリムチーム」は構成吟詠「讃岐の風景」を吟詠と剣詩舞で披露し、若さと熱意をあますところなく発揮して多くの観客を魅了しました。臥風流では、今年も数々の行事が計画されています。まず「諸行事に参加すること」をモットーに取り組んで参りましょう。何卒よろしくご協力賜われますようお願いいたします。

令和八年が皆様方にとりまして幸多き年でありませう、そして益々のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

令和八年度 臥風流本部事業計画決定

昨年十二月七日高松市国分寺会館に於いて、臥風流吟詠会本部長 任理事会が開催されました。

始めに、徳田寿風会長から挨拶があり、続いて久保田章風事務局長から令和八年度事業計画(案)の説明があり審議が開始、次のとおり決定されました。

令和八年度事業計画

- (1) 指導者研修(和歌講習) 4月11日(土)
 - (2) 常任理事会 4月11日(土)
 - (3) 段級審査打合せ 4月11日(土)
 - (4) 段級審査会 5月10日(日)
 - (5) 自由吟詠 5月23日(土)
 - (6) 師範研修会(1) 5月23日(土)
 - (7) 役員総会 6月7日(日)
 - (8) 自由吟詠 7月11日(土)
 - (9) 師範研修会(2) 7月11日(土)
 - (10) 第44回臥風流吟詠詩舞道大会 9月6日(日)
 - (11) 段級別吟詠コンクール 10月3日(土)
 - (12) 吟士権者決定吟詠大会 10月3日(土)
 - (13) 全員研修会 10月24日(土)
 - (14) 自由吟詠 11月21日(土)
 - (15) 師範研修会(3) 11月21日(土)
 - (16) 常任理事会 12月6日(日)
 - (17) 吟詠発表大会(準師範以上) 令和9年3月21日(日)
- 【別記】
◎第44回臥風流吟詠詩舞道大会
日時 9月6日(日)
会場 高松国分寺ホール
開催要領
①合吟コンクール(5名の部男女別)

- ②自由合吟の部
- ③吟詠(90歳以上の部)
- ④新準師範・新師範補の部
- ⑤式典 主催者挨拶・表彰
(傘寿・米寿・白寿)
- ⑥臥風流幼少年部(構成吟詠)
- ⑦剣詩舞・吟詠の部
- ⑧全国吟詠剣詩舞コンクール決勝大会出場者
- ⑨全国吟詠コンクール決勝大会
(歴代優勝者)
- ⑩吟詠 総範・大師範連吟
- ⑪吟詠 名誉会長・少壮吟士OG
- ◎全員研修会
日時 10月24日(土)
会場 高松国分寺ホール
開催要領
- ①令和9年度臥風流指定吟題集について
- ②特別研修
- ③令和8年度段級別吟詠コンクール(優勝者)
- ④令和8年度吟士権者決定吟詠大会(吟士権者)
- ⑤令和8年度段級審査会(師範合格者)
- ⑥令和8年度各種県大会及び四国・中国・全国大会優秀者(剣舞)
- ⑦令和8年度各種県大会及び四

「日本の誇」 詩碑参拝

会計部長 佐々木 政風

春爛漫の令和七年四月一日に、高松市宮脇町の石清尾八幡神社境内に建立の詩碑に、徳田寿風会長・久保田章風事務局長と私の三人で参拝し、お酒をお供えし、臥風流の発展を祈り、お誓いいたしました。

宗家栗山臥風先生の顕彰碑の前で栗山臥風作「日本の誇」と楠誠風作「臥風流吟詠会詩」を献吟し、栗山臥風宗家への感謝と臥風流の繁栄を祈りました。

献吟した後、一人の参拝客の女性に徳田寿風会長の吟詠に「素晴らしいお声ですね」と近くによつ

て来ました。詩吟に関心があるよ
うなので、詩吟について説明し、
詩吟を始めるよう勧め連絡先も伝
え一人からでも詩吟を始める人が
増えたらいいなと思いました。



左より 久保田章風事務局長、徳田寿風会長、
佐々木政風会計部長

国分寺ホールと高松市国分寺会館
に於いて開催され、79名が受審。
二級〜四段まで六階級で43名、
五段、準師範、師範補、師範の36
名が受審し、57名が合格し、六月
一日の役員総会に於いて、それぞ
れ允許状が渡されました。
各段級別合格者数は、次頁のと
おりでした。

入会后初となる二級を受審の11
名は、緊張の中にも堂々と吟じ全
員合格すると共に、成績優秀者2
名は一階級上位の一級が允許され
ました。

また、二級、一級、初段、二段
を受審の内で成績優秀者には、次
のとおりそれぞれ特進が允許され
ました。

【二級受審で一級允許者】 2名

寺井千弘(寿風)

伊達義明(鶴風)

【二級受審で初段允許者】 3名

眞光明子(寿風)

青木奏真(孝風)

濱野敬子(孝風)

【初段受審で二段允許者】 1名

中村廣助(香南町)

【二段受審で三段允許者】 1名

橋本琴音(孝風)

令和七年度 段級審査結果

年一回の昇段試験となる段級審
査会が、昨年五月十一日に、高松

令和7年度 臥風流段級審査合格者数

実施日：令和7年5月11日

区分	申込者	欠席者	実受審者	合格者	合格率(%)	特進者
2級	11	4	7	7	100.0	2
1級	11	0	11	11	100.0	3
初段	2	0	2	2	100.0	1
二段	6	0	6	6	100.0	1
三段	2	0	2	2	100.0	0
四段	11	1	10	7	70.0	0
五段	10	2	8	5	62.5	0
準師範	8	0	8	5	62.5	0
師範補	9	0	9	6	66.6	0
師範	9	0	9	6	66.6	0
合計	79	7	72	57	79.1	7

【三段合格者雅号付与】
 今回、三段に合格された2名と特進の1名の方々には、「臥」の付く雅号が付与されました。また、師範に合格の6名には「風」の付く雅号が付与され、指導者としての地位を確固たるものになりました。

【師範合格者と雅号付与】 6名
 青木賢心・賢風(孝風) 東條真衣・真風(英風) 橋本百恵・百風(孝風) 樋口裕子・裕風(寿風) 納田恭子・恭風(英風) 小野輝子・輝風(寿風)

**臥風流吟詠会
本部役員総会開催す**

昨年六月一日、高松市内マリンパレスさぬき2階瀬戸の間に於いて、105名の役員中、33名の委任状、72名が出席して盛大に開催されました。

午前十時開会宣言の後、徳田寿風会長の詩吟を長く続けるために歯を大切にしましょうとの挨拶

[過去10年間の実績]

年度	申込者	欠席者	実受審者	合格者	合格率(%)	特進者
6年度	83	7	76	63	82.7	5
5年度	95	7	88	66	75.0	5
4年度	114	8	106	85	80.2	5
3年度	132	16	116	89	76.7	6
2年度	172	0	172	172	100.0	0
元年度	179	13	166	134	80.7	10
30年度	192	10	182	146	80.2	10
29年度	216	12	204	169	82.8	12
28年度	225	16	209	177	84.7	12
27年度	265	19	246	204	82.9	14

があり、昨年同様、議長団に定國伯風(英風) 玉木浩風(長尾) 両氏を選出し議事が進められました。



徳田寿風会長
挨拶



玉木 浩風 定國 伯風
議長団の選出

第一号議案に、令和六年度事業報告が上程され、久保田章風事務局長より各種事業の報告が行われました。

第二号議案に、令和六年度会計決算報告が上程され、佐々木政風会計部長より収支報告が詳細に行われました。(別表四頁)

その後、大路幸風代表監事より会計監査報告があり、その内容は全て適正である。と報告されました。

第三号議案は、令和七年度事業計画案が事務局より提案されました。

- (1) 常任理事会 4月12日(土)
- (2) 段級審査打合せ 4月12日(土)
- (3) 段級審査会(第1会場) 5月11日(日)
- (4) 段級審査会(第2会場)
- (5) 自由吟詠 5月11日(日)
- (6) 師範研修会(1) 5月24日(土)
- (7) 役員総会 6月1日(日)
- (8) 自由吟詠 7月12日(土)
- (9) 師範研修会(2) 7月12日(土)
- (10) 第43回臥風流吟詠詩舞道大会 8月31日(日)
- (11) 段級別吟詠コンクール 10月4日(土)
- (12) 吟士権者決定吟詠大会 10月4日(土)
- (13) 全員研修会 11月16日(日)
- (14) 自由吟詠 11月29日(土)
- (15) 師範研修会(3) 11月29日(土)
- (16) 常任理事会 12月7日(日)

(17) 吟詠発表大会【準師範以上】
令和8年3月20日(金)期

◎本部関連事業

① 郊外研修会 各ブロック別を実施
引き続き、第四号議案の予算案
(別表)が会計部長から提案され承認されました。

第五号議案では役員変更(案)が提案され改正されました。

第六号議案その他では

(1) 脱会の承認

No.15 大内吟詠会

代表者 松下功 (功風)

7・3・31付

No.20 香川町吟詠会

代表者 川田美佐子 (紅風)

7・3・31付

No.44 三溪吟詠会

代表者 山地花枝 (修風)

7・3・31付

No.58 青山吟詠会

代表者 盛田十九三 (青風)

7・3・31付

No.71 あゆみ吟詠会

代表者 樋口徳子 (徳風)

7・3・31付

(2) 会員の推移

二年度 528名

三年度 472名
四年度 432名
五年度 389名
六年度 389名

(3) 臥風流ホームページ

アクセスログ日別(令和6年4月1日~令和7年3月31日)

訪問者 851

訪問数 1,101

ページビュー数 2,398

問合せ数 0

(4) 徳田寿風先生 令和6年度香川県文化功労者顕彰 受賞祝賀会

(5) 井口央風会(8団体)より寄付金について

(6) 第55回全国吟剣詩舞道大会について

(7) 全国高校総合文化祭吟剣詩舞部門発表会について

(8) 財団発行「吟剣詩舞道歌集」について

(9) 財団機関紙月刊(吟剣詩舞)の購読増強について

最後に徳田寿風臥風流会長より閉会の挨拶があり役員総会が終了しました。

令和6年度会計報告書

自 令和6年4月1日~至 令和7年3月31日

単位:円

収 入 の 部		
令和6年度各大会会場他費用 仮払戻入		400,163
本部会費 (一般)	368名	1,104,000
準師範以上会費 (特別)	279名	1,395,000
教本収益金		449,000
允許料		539,400
預金利子		1,613
香川県総連より用品使用料等		40,000
寄付金 (央風会より)		165,479
令和7年度段級審査会 受審料仮受		223,000
小 計		4,317,655
前年度繰越金		7,075,927
合 計		11,393,582

支 出 の 部		
令和6年度段級審査会受審料 仮受払出		236,000
段級審査会費		273,930
全員研修会費		85,110
役員総会費		481,306
吟剣詩舞道大会費		265,936
吟士権者決定・段級別 コンクール費		14,743
吟詠発表大会費		△ 43,762
師範研修会費		386,824
祝賀会費		78,191
常任理事会・執行部会費		72,059
役員名簿印刷費		204,600
臥風流だより発行費		343,200
広報費		161,200
幼少年活動費		43,896
令和7年度教本発行費		239,800
各種通知文等印刷費		79,580
慶弔費		322,000
コロナ対策費		123,565
本部運営費		1,714,283
・事務所 家賃		(427,260)
・事務所 コピー機維持費		(269,666)
・事務所 雑費		(573,825)
・事務局活動費		(280,000)
・通信・郵送料		(163,532)
令和7年度各大会会場費等 費用仮払		461,744
小 計		5,544,235
次年度繰越金		5,849,347
合 計		11,393,582

令和7年度会計予算書

自 令和7年4月1日～至 令和8年3月31日

単位:千円

収 入 の 部		
令和7年度大会会場費他	仮払戻入	462
本部会費(一般)	352名	1,056
準師範以上会費(特別)	262名	1,310
令和8年度版教本	収益金	450
免許料		1,000
預金利息		2
香川県総連より用品使用料等		50
令和8年度段級審査会	受審料仮受	230
小計		4,560
前年度繰越金		5,849
合計		10,409

支 出 の 部		
令和7年度段級審査会受審料仮受払出		223
段級審査会費		280
全員研修会費		90
役員総会費		500
吟剣詩舞道大会		280
吟士権者決定・段級別コンクール費		40
吟詠発表大会費		1
師範研修会費		450
常任理事会費・執行部会費		80
役員名簿印刷費		210
臥風流だより発行費		350
広報費		200
幼少年活動費		80
総文祭協賛金		100
令和8年度版教本発行費		850
各種通知文等印刷費		100
慶弔費		100
コロナ対策費		50
本部運営費		1,388
・事務所 家賃		(428)
・事務所 コピー機維持費		(280)
・事務所 雑費		(200)
・事務局活動費		(280)
・通信・郵送料		(200)
令和8年度段級審査会他費用仮払		480
小計		5,852
次年度繰越金		4,557
合計		10,409

この栄誉を記念して令和七年二月二日、JRホテルクレメント高松に於いて祝賀会が盛大に開催されました。

開会の辞の後、宮本浩風臥風流吟詠会名誉会長により主催者挨拶があり、続いて久保田章風臥風流事務局長により徳田寿風会長の経歴紹介がありました。

その後、池田豊人香川県知事からの祝電披露があり、続いて沼崎富公益財団法人日本吟剣詩舞振興会会長から徳田寿風会長の称賛する来賓祝辞がありました。

この事は、ご本人ご家族はもとより我々会員にとっても待望の朗報であり、誠に同慶の至りであります。

この栄誉を記念して令和七年二月二日、JRホテルクレメント高松に於いて祝賀会が盛大に開催されました。

開会の辞の後、宮本浩風臥風流吟詠会名誉会長により主催者挨拶があり、続いて久保田章風臥風流事務局長により徳田寿風会長の経歴紹介がありました。

その後、池田豊人香川県知事からの祝電披露があり、続いて沼崎富公益財団法人日本吟剣詩舞振興会会長から徳田寿風会長の称賛する来賓祝辞がありました。

臥風流吟詠会徳田寿風会長が多年に亘る吟詠活動を通じて、伝統文化の発展に尽力された功績により、令和六年度香川県文化功労者受賞の栄誉に浴されました。

この事は、ご本人ご家族はもとより我々会員にとっても待望の朗報であり、誠に同慶の至りであります。

徳田寿風会長
香川県文化功労者
顕賞受賞記念祝賀会

引き続きして菅本如泉香川県吟剣詩舞道総連盟常任顧問の来賓祝辞があり続いて全国各地から来られました来賓の紹介があり、その後、松川天風臥風流吟詠会事務局次長による大勢の徳田寿風会長の称える祝電の披露がありました。

その後、舞台に変わり、尾松霊幹水心黎明流剣舞会による、お祝いの舞「日本刀」を、大森英風臥風流吟詠会副会長による素晴らしい見事な吟で舞われました。

続いて川原霊宗水心黎明流総本

引き続きして菅本如泉香川県吟剣詩舞道総連盟常任顧問の来賓祝辞があり続いて全国各地から来られました来賓の紹介があり、その後、松川天風臥風流吟詠会事務局次長による大勢の徳田寿風会長の称える祝電の披露がありました。

その後、舞台に変わり、尾松霊幹水心黎明流剣舞会による、お祝いの舞「日本刀」を、大森英風臥風流吟詠会副会長による素晴らしい見事な吟で舞われました。

続いて川原霊宗水心黎明流総本



沼崎富公益財団法人日本吟剣詩舞振興会会長 祝辞

部宗家による舞「厳島」が大島壺泉哲泉流日本吟詠会総師範による吟で行われた後、出席者全員参加しての男子全員による「富士山」の大合吟と、出席女子全員による「松竹梅」の会場を響かす大合吟が行われました。

続きまして大路幸風臥風流吟詠会本部寿風吟詠会会長から徳田寿風会長に花束贈呈があり、続いて徳田寿風会長のお孫さんたちから徳田寿風会長に花束贈呈の後、微笑ましいインタビューがありました。ほのぼのとした後、徳田寿風会長から参加者、関係者全員に対しての謝辞のお言葉がありました。最後に徳田寿風会長による忘れえぬ心に残る詩歌三題として臥風流に入会して翌年に行われた全国吟詠コンクールで見事優勝された時に吟じた「九月十三夜陣中の作」などが吟じられました。



徳田寿風会長
記念吟詠

以上で式典が終わり暫時休憩の後、池内賢二公益財団法人日本吟剣詩舞振興会専務理事による開宴挨拶乾杯の音頭があり祝宴が始まりました。

お御馳走を食べ飲談の後、余興が始まりました。

最初に八葉会による「宝船」の吟詠が披露され、次に香川県吟詠詩舞道中讃連盟有志による「狸踊り・金毘羅船々・雄姿丸亀城」が披露されました。

続いて香川県吟詠詩舞道中讃連盟有志による「ボケない小唄」が披露されました。その後水心黎明流剣詩舞道有志による「上を向いて歩こう」が披露され、臥風流吟詠会本部有志による「古城・武田節」が続き、余興も最後に近づき、臥風流吟詠会本部寿風吟詠会による「三百六十五歩のマーチ・いつでも夢を」が披露され、恒例の出席者全員による総踊り「瀬戸の都・高松踊り」が舞われました。

最後に横山公風臥風流吟詠会副会長による閉会の挨拶の後、万歳三唱で祝賀会が無事終了しました。



運営スタッフ記念撮影

令和七年度 臥風流 全員研修会

昨年十一月十六日(日)三木町文化交流プラザに於いて、臥風流全員研修会に百七十五名の会員が参加して開催されました。

大森英風大会委員長の開会のことばに続き、国歌斉唱、臥風流吟詠会詩吟詠がありました。

続いて徳田寿風会長による「令和八年度臥風流指定吟題集について」の研修があり、指定吟題十詩について詳しく教えて頂きました。



徳田寿風会長による
研修

続いて「公益財団法人前会長笹川鎮江先生の講義録に見る審査の実態と注意点」の特別研修があり、その後、徳田寿風大会会長より挨拶がありました。

続いて日本武道館に於いて開催された全国合吟コンクールで見事準優勝となった臥風流吟詠会本部女子による吟詠と、見事入賞した香川県吟剣詩舞道総連盟男子による吟詠がありました。



臥風流吟詠会本部女子



香川県吟剣詩舞道総連盟男子

ここで午前の部は終了し昼食休憩に入りました。
 午後の部に入り、段級別吟詠コンクール優勝者三名、吟士権者決定吟詠大会吟士権者二名、段級審査会師範合格者六名の吟詠がありました。
 続いて各種県大会及び四国・中国大会優秀者(剣舞)二名による剣舞があり、その後各種県大会及び四国・中国大会優秀者(詩吟)二十名による吟詠がありました。
 続いて臥風流吟剣詩舞道合吟コンクール出場上位三チームによる吟詠があり、その後全国吟剣詩舞コンクール決勝大会出場者九名に

よる剣舞と吟詠がありました。
 続いて全国吟詠コンクール決勝大会歴代優勝者三名によるすばらしい吟詠があり、続いて少壮吟士OG吟詠で大森英風先生による大森英風愛吟集から吟詠される予定でしたが、体調不良により予定変更して、楽しく為になるトークショーがありました。
 徳田寿風会長による構成吟詠「西郷隆盛」西南戦争の場面が吟じられ、圧巻の迫力に感動しました。



横山公風大会副委員長
閉会挨拶

最後に横山公風大会副委員長の閉会の言葉で全員研修会を終えました。



令和六年度の最後の事業である吟詠発表大会が昨年の三月二十三日、丸亀生涯学習センターで行われ、準師範から総範までの会員が参加して、平素の吟詠研鑽の成果を発表しました。

横山公風大会委員長の開会のことばの後、国歌斉唱、臥風流吟詠会詩吟詠と続き、吟詠第一部準師範・師範補では四名の発表がありました。

第二部師範では、五十七名の発表がありました。

第三部大師範・総範では、十八名の発表がありました。

徳田寿風大会会長の挨拶があり、季節を感じて詩吟に役立ててほしいとの言葉がありました。

また、本年度全国合吟コンクールが、東京の日本武道館で開催されます。臥風流として男・女二チームは是非参加させたいので奮って申込をして欲しいと話がありました。続きまして、昨年、徳田寿風会



長が「香川県文化功労者」表彰を受賞した事に対するお祝いの贈呈が宮本名誉会長よりされました。



宮本浩風名誉会長



徳田寿風会長

続きまして、故井口央風先生が指導していた、八吟詠会で構成していた中央風会が、昨今の会員減少により解散する事になり、中央風の会計残金が臥風流吟詠会に寄付される事となりました。前原洋風先生より贈呈されました。



前原洋風先生

最後に大森英風大会副委員長の挨拶で閉会となりました。

師範研修会前の

自由吟詠 (一)

第一回 五月二十四日(土)

当日は朝から悪天候でしたが、早くから高松国分寺ホールに足を運び午前中の自由吟詠を熱心に聴いていました。

定刻に久保田章風事務局長の挨拶が始まり、六十二名の申込みがありました。申し込まれていない方、再度の希望者もあり、時間オーバーするほどの出場者が日頃の練習の成果を力強く発表されました。最後に松川天風事務局次長より申込み者の増強のお願い、これからの自由吟詠の在り方の話がありました。

師範研修会開催 (一)

令和七年度、第一回師範研修会が五月二十四日(土)に高松国分寺ホールに於いて、会員百二十二名の参加で開催されました。

最初に横山公風研修部長より会場の方々に向けて「この発表指導を自身のお事と思ってお聞いてください」と開催の挨拶がありました。



横山公風研修部長
開会挨拶

その後大森英風研修部次長による律詩(寧楽懐古)の吟詠研修を、続いて徳田寿風会長による律詩(花月吟)の吟詠研修を受けました。



大森英風研修部次長
による吟詠研修

徳田寿風会長からは、詩文メモの持ち方についてのご指導があり、「詩文は下部を持ち肘を張らないように構える事、また詩文の高さは顔を動かさなくても見える位置で、身体と一体感となるように構える事」と、徳田寿風会長ご自身が舞台上で表現して研修をされました。

次に個別に吟詠指導を受ける九人の会員が発表をされ、徳田寿風会長・大森英風研修部次長による吟詠の基本的な部分や細かい節回し等、丁寧適切にご指導をされました。

また客席の会員も発表者と同じ思いで指導内容を聴き、メモを取りながら熱心に指導状況を見聞きされていました。



徳田寿風会長による
吟詠研修



師範研修会前の

自由吟詠(二)

第二回 七月十二日(土)

第二回目自由吟詠が昨年七月十二日(土)高松国分寺ホールで六十三名の参加で開催されました。

最初に久保田章風事務局長の挨拶として午前中の空き時間を有効活用して、練習発表で吟詠向上の場となり主旨が定着してきました。

又、大会発表の力は三ヶ月前の実力が出ると言われますので、日頃の地道な努力が大切ですと話されました。

師範研修会開催(二)

第二回目の師範研修会が高松国分寺ホールに於いて、受講者百十名が参加し開催されました。

最初に横山公風研修部長の挨拶があり、令和八年度指定吟題集より律詩「帰省」を横山研修部長が「彰義隊」と香炉峰下の山居」を大森英風研修部次長のご指導がありました。

その後個人吟詠指導では、発表後横山公風研修部長が一人ずつ懇切丁寧な指導の中で、いい声を作りたい (1)全身で詠う↓立ち方

下半身を使う呼吸の仕方 (2)言葉↓判りやすく 鮮明な言葉 素読を繰り返す口の体操 (3)マイクを上手に使う↓強弱等 今回も細かく具体的など指導を受け大変勉強になりました。

師範研修会前の

自由吟詠(三)

第二回 十一月二十九日(土)

昨年十一月二十九日六十九名の参加者が自由吟詠発表をしました。事務局長の久保田章風先生の挨拶で、先日全国大会に於いて女子が

準優勝、男子が入賞されました。これも日頃からの練習の賜ものと思われます。本日の自由吟詠は吟者の思い、感動を自由に表現出来る場です。さらなる発展を目指して取り組んで下さいとの言葉がありました

師範研修会開催(三)

令和七年度最後の師範研修会が十一月二十九日高松国分寺ホールに於いて、会員百十五名の参加で開催されました。

最初に横山公風研修部長の挨拶があり、続いて徳田寿風会長の和歌四題のご指導がありました。六十五周年記念品として配布された教本により、季節、季節の詩で風情を感じて頂きたい。今後和歌は三年後位には県、四国、全国の大会が開かれるよう準備中であり伴奏用CDも作成されます。今後は和歌をもっと普及し楽しんで頂きたいとの要望がありました。

最初の「東の」は狩りに出かけ、振り返ると気持ちが入っていく詩。「天の原」は大空を見れば帰れなかつた望郷の念の詩。「淡路島」は千鳥の物悲しげに鳴く声で目覚める詩。「くれないの」は床の中から小庭を見て読んだ詩の情景を考えて詩って頂きたいと、今回も丁寧なご指導を頂き大変勉強になりました。時間の合間に徳田寿風会長

の「思い出ひもどく」として詩吟の入会当時、一年後に全国吟詠コンクールで全国優勝した事、そしてその年にコロムビア大会で優勝した話、それから少壮吟士時代から十年後の緊張と感激の事、大会では普段通りの声が何時も発揮できた事等大変貴重な体験のお話を聞いて大変感動しました。

続いて大森英風研修部次長の吟詠発表者六人のご指導では、詩文を素読しひらがなをきちんと発音すること、語尾を下げずに上げること、言葉に区切りをつけることなく流れるように詠う。マイクの位置は体に合った高さにする等細かく的確なご指導を頂き大変勉強になりました。

第五十二回 臥風流

段級別コンクール大会

昨年十月四日、高松市国分寺会館に於いて、幼少年の部、無級から五段までの会員四十一名が参加して開催されました。

各段級別・年齢区分別入賞者は

次のとおりです。

【幼・少年の部】

- 優勝 寺竹 陽菜(英風)
- 準優勝 青木 奏真(孝風)
- 第三位 橋本 琴音(孝風)



準優勝 青木 奏真 優勝 寺竹 陽菜 第三位 橋本 琴音

【無級の部】

優勝 東原 誠(仏生山)
尚、無級の部で東原誠は特進して二級を允許されました。



優勝 東原 誠

【第一部】(二級～二段69歳以下)

- 優勝 濱野 敬子(孝風)
- 準優勝 岩原 廣彦(寿風)



準優勝 岩原 廣彦 優勝 濱野 敬子

【第二部】(二級～二段70歳以上)

- 優勝 塩田 芳男(香南町)
- 準優勝 眞光 明子(寿風)
- 第三位 中村 廣助(香南町)



準優勝 眞光 明子 優勝 塩田 芳男 第三位 中村 廣助

【第三部】(三段～五段69歳以下)

- 優勝 松尾 祐子(寿風)



優勝 松尾 祐子

【第四部】(三段～五段70歳以上)

- 優勝 井澤 幸恵(寿風)
- 準優勝 山野 緑(寿風)
- 第三位 崎山 重子(仏生山)
- 入賞 大塚尋江(綾南陶)、大川美和子(満濃)、筒井真知子(山本)



準優勝 山野 緑 優勝 井澤 幸恵 第三位 崎山 重子

出吟順

この度は、優勝という栄えある賞をいただきとても恐縮しております。

私が最初に詩吟に出会ったのはもう四十五年も前の大阪です。普通の学生らしく、吟詩部に勧誘されなんとなく入部そして卒部の後、社会人になりました。しかし、独身当時、小中学校の同窓会などで武田節や白虎隊を披露しても認知度が低く反応が今一だったようなこともあって、だんだん詩吟と疎遠になっていきました。

時は流れ、私生活も落ち着いて七、八年前からまたなんとなく吟詩部のOB会に出席するようになりました。当初は再び詩吟をする気はありませんでしたが、最近一年下の後輩が詩吟を再開したと聞いて、それは聞き捨てならぬと、それが後押しになって、でもひとりですれ声練習をするほど熱意もなく、とりあえず自宅から直近の仏

段級別吟詠コンクール無級の部
優勝者のよるこび

東原 誠(仏生山)

生山の詩吟教室を覗いてみたわけです。
流派は違えど、熱心できめ細かいご指導は想像以上で腕を磨くには絶好の環境だと大変心強く思っています。今後も楽しみながら詩吟を練習し更なる高みを目指して頑張る所存ですのでよろしくお願ひします。



東原 誠

第二十四回
臥風流吟士権者
決定吟詠大会

昨年十月四日高松国分寺ホールに於いて準師範以上の会員が八十三名参加して開催されました。第一部六名、第二部四十五名、第三部三十二名で競い合いました。成績は次のとおりです。

【第一部】(69歳以下)

優勝 橋本 真希(孝風)
準優勝 山本 郁代(玉藻)



準優勝
山本 郁代

優勝
橋本 真希

【第二部】(70〜79歳)

優勝 木太 和代(仏生山)
準優勝 山本 初子(満濃)
第三位 玉川 壽美子(志度)
入賞 片岡秀子(寿風)、浅井能延(寿風)、西岡くに子(本山)、定國浩(英風)、植松幸子(寿風)、黒島ひとみ(三観)、小泉真砂子(綾南)、森博子(英風)、廣瀬恵子(英風)、長谷川美喜子(山本)、宮本修(寿風)

【第三部】(80歳以上)

優勝 古川 シズ子(綾南陶)
準優勝 池田 武勇(仏生山)
第三位 大野 利勝(寿風)
入賞 小河聖(悠風)、米澤都子(石清尾)、堀田千賀子(満濃)、宮武明美(本山)、田中啓子(寿風)、飯田昌孝(春日)、鎌田保(信風)、岩田雅芳(桑山)



準優勝
山本 初子

優勝
木太 和代

第三位
玉川 壽美子

令和七年度
第四十三回臥風流
吟剣詩舞道大会

猛暑が厳しいこの時期、八月三十一日(日)午前九時より、高松国分寺ホールに於いて当大会が開催されました。
始めに大森英風先生より開会のことばとして「元氣よく大きな声



準優勝
池田 武勇

優勝
古川 シズ子

第三位
大野 利勝

で、楽しく吟じて下さい」と挨拶
されました。

その後プログラム一番は合吟コ
ンクールがあり、出場七チームそ
れぞれが息の合った伸び伸びとし
た表現で吟詠をされていました。

- 優勝 寿風吟詠会A
- 準優勝 寿風吟詠会B
- 第三位 英風吟詠会
- 入賞 寿風吟詠会C



優勝 寿風吟詠会A



第三位 英風吟詠会



準優勝 寿風吟詠会B

プログラム二番三番は合吟発表
の内容で、まずは自由合吟の部で
十七チームが出場、続いてプログ
ラム三番は全国合吟コンクール出
場の臥風流本部女子の二十五名、
続いて香川県総連盟男子の十五名
の方々が合吟発表をされました。
プログラム四番は独吟で、九十
歳以上の部として六名の吟詠発表
がありました。



富川 扇風
(綾南陶)



伊丹 敏風
(ちきり)



河合 博風
(寿風)



小野 輝風
(寿風)



山岡 臥彰
(仏生山)



尾崎 臥修
(寿風)

続いてプログラム五番は、新し
く準師範・師範補に昇段された方
々が、感慨深い気持ちに胸に、士
気溢れる力強い合吟の発表をされ
ていました。



松下 真風
(高吟)



福家 和風
(綾南陶)

プログラム六番は、長寿を祝して表彰を授与される方々の式典を行いました。

【傘寿の部】(18名)
 山本貴風(満濃)、土岐晴風(鷺山)、池田弘風(四電)、小田孝風(寿風)、寺嶋清風(満濃)、片岡秀風(寿風)、森谷光風(下笠居)、飯田芳風(春日)、御厨蘭風(春日)、浜崎翠風(英風)、定國伯風(英風)、三野春風(牟礼)、小河聖風(悠風)、三好杏風(簡保)、北原潤風(信風)、網野憲一(白鳥)、佐々木壽子(国分寺)、三好愛子(相愛)



湊 臥街 (孝風) 上原 臥孝 (仏生山) 定國 臥美 (英風)

【米寿の部】(9名)
 宮本浩風(四電)、西田緑風(本山)、橋本京風(高吟)、柏野和風(綾南陶)、細谷千風(綾南陶)、高橋枝風(満濃)、白神榮風(鷺山)、末包臥城(国分寺)、中村ミユキ(相愛)



傘寿代表 土岐 晴風(鷺山)



米寿代表 橋本 京風(高吟)

「これからも末永く吟詠を楽しんで下さい」と声をかけられて、嬉しさが顔ににじみ出る程、喜ばれていました。

プログラム七番は、特別功労者

を表彰する式典として、臥風流教本のデジタル化に貢献された伊丹敏風様が表彰をされました。



伊丹 敏風 (ちぎり)

その後プログラム八番の会長挨拶では、徳田寿風会長が「今年の合吟コンクールは七チームの参加出場でしたが、今一度吟詠の研鑽に励んで頂き、多くのチーム参加を、お願い申し上げます」と挨拶されました。



徳田寿風会長 挨拶

プログラム九番の臥風流幼少年の部においては、構成吟詠「絆」と

「讃岐の風景 郷里の風景より」の二演目を発表されました。内容は詩吟・剣舞・詩舞・朗読・朗詠と様々で、学生達による盛り沢山の舞台を観て、会場が一段と華やかな雰囲気でも包まれていました。



臥風流幼少年の部

プログラム十番は、剣詩舞と吟詠の両者による発表という事で、十組の演者それぞれが、息の合った素晴らしい舞台を披露されました。

プログラム十一番は、吟詠・剣詩舞の各コンクールで、決勝大会に出場された方々(剣舞二名・詩吟七名)の発表と、歴代の全国吟詠大会及びコンクールにおいて、優勝に輝いた吟詠者(三名)の発表がありました。

最後のプログラム十二番は、総範・大師範の諸先生方の連吟・独吟の発表がありました。



河合 博風
(寿風)

鈴木 幹風
(寿風)



森 賀風
(英風)

松原 綾風
(寿風)



小田 孝風
(寿風)

村主 志風
(寿風)



植松 幸風
(寿風)



山本 萌風
(玉藻)

井上 菖風
(玉藻)



草薙 賢風
(寿風)

佐々木 誠風
(寿風)



庵原 修風
(孝風)



吉中 緑風
(寿風)



小竹 勲風
(玉藻)

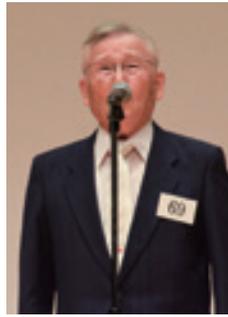
久保 仁風
(玉藻)





橋崎 圭風
(飯山)

安藤 鶴風
(鶴風)



池田 武風
(仏生山)



古川 静風
(綾南陶)

米澤 都風
(石清尾)



坂東 恵風
(英風)

田中 光風
(英風)



尾松 隆風
(綾南陶)

柏野 和風
(綾南陶)



川田 美風
(仏生山)



香西 広風
(三木町)



南原 孝風
(下笠居)



宮武 明風
(本山)

野田 湘風
(本山)

諸先生方の引き締まった吟詠を聴いて、会場に來られた方々は大変満足な笑顔で会場を後にされました。



徳田 寿風
(仏生山)



大森 英風
(英風)



久保田 章風
(満濃)



横山 公風
(綾南)



令和七年度
全国吟詠コンクール
香川県予選大会

昨年四月二十九日高松国分寺ホールに香川県下より各流派から、集まり盛大に開催されました。

【幼年の部】

優勝 寺竹 陽菜(英風)

佳吟賞 飯村仁(英風)、青木奏真(孝風)、橋本琴音(孝風) 出吟順



優勝 寺竹 陽菜

【少年の部】

佳吟賞 橋本百恵(孝風)

優勝 橋本 真希(孝風)



優勝 橋本 真希

【一般一部】

準優勝 浦 麻紀(寿風)



準優勝 浦 麻紀

【一般二部】

優勝 東原 恵(寿風)

第三位 松尾 祐子(寿風)

入賞 松川吉伸(四電)、佐々木政彦(牟礼)、児島節(木太中)、鍛冶田智育(四電)、立川正史(寿風)、大西博子(本山)、木太和代(仏生山)、小泉真砂子(陵南)、濱野敬子(孝風) 出吟順

佳吟賞 青木純子(孝風)、藤本由紀子(寿風) 出吟順



第三位 松尾 祐子

優勝 東原 恵

【一般三部】

準優勝 前原 洋子(簡保)

入賞 池田弘隆(四電)、堀井勲(津田)、定國浩(英風)、鈴木幹男(寿風)、細川節子(志度)、小田孝子(寿風)、山本初子(満濃)、森博子(英風)、黒島ひとみ(三観)、植松幸子(寿風) 出吟順

佳吟賞 坂東恵美子(英風)、浜崎清美(英風)、藤井チナコ(悠風)、宮本修(寿風)、玉川壽美子(志度)、森啓子(綾南)、小竹勲(玉藻)、米澤都子(石清尾)、山地英文(寿風)、田村祐二(仏生山)、古川シズ子(綾南陶)、飯田芳子(春日)、飯田昌孝(春日)、山野緑(寿風) 出吟順



準優勝 前原 洋子



全国吟詠コンクール
四国地区大会

昨年七月六日高松国分寺ホールに於いて開催されました。

【幼年の部】

優勝 寺竹 陽菜(英風)



優勝 寺竹 陽菜

【青年の部】

優勝 橋本 真希(孝風)



優勝 橋本 真希

【一般一部】

佳吟賞 浦 麻紀(寿風)

【一般二部】

準優勝 東原 恵(寿風)

入賞 佐々木政彦(牟礼)、松川吉伸(四電) 出吟順

佳吟賞 濱野敬子(孝風)



準優勝 東原 恵

【一般三部】

第三位 池田 弘隆(四電)

入賞 前原 洋子(簡保)

佳吟賞 堀井勲(津田)、山本初子

(滴濃)、定國浩(英風)、黒島ひとみ(三観)、小田孝子(寿風)、植松幸子(寿風)

出吟順



第三位 池田 弘隆



令和七年度 全国吟詠コンクール 決勝大会
昨年九月十五日、東京日本教育会館・一ツ橋ホールに於いて熱戦が繰り広げられ臥風流からは次の

七名が挑戦し、二名が入賞しました。おめでとうございます。

【出吟者】

幼年の部 寺竹 陽菜(英風)

青年の部 橋本 真希(孝風)

一般二部 東原 恵(寿風)

佐々木 政彦(牟礼)

松川 吉伸(四電)

一般三部 池田 弘隆(四電)

前原 洋子(簡保)

【入賞者】

幼年の部 四位

寺竹 陽菜(英風)

一般二部 五位

東原 恵(寿風)

全国大会に出場して

寺竹 陽菜(英風)

ピンとはりつめた会場の中、名前を呼ばれたしゅん間、おどろきとうれしさで心が跳びはねました。

香川予選、四国地区大会と重ねていくうちに、少しずつ気持ちが高まっていったのを覚えています。

初めての全国吟で幼年の部の出吟番号が一番目と知った時は、ラッ

キーだと思いましたが、当日の発声会場で全員が素晴らしいように思えて、圧倒されそうになりました。

いよいよ本番、舞台袖で待つている時、最後の練習で、大森先生が「とにかく笑顔で楽しんでおいで」とおっしゃったのを思い出し、心の中で「スマイル!」と思い、スイッチが入りました。

あつという間の二分弱でした。舞台からの映像は鮮明に残っていますが、音は覚えていません。ただ、普段よりも落ち着いて出来た感覚はあつたように思います。

最後に、入賞できたのは、家族や祖父母の支え、そして、ていねいで細やかな大森先生のご指導のおかげだと感謝しています。この結果に満足することなく日々の練習に励んでいきたいと思えます。



寺竹 陽菜

令和七年度 全国吟詠コンクール 決勝大会に出場して

東原 恵(寿風)

昨年、九月十五日 日本教育会館一ツ橋ホールで開催された「令和七年度全国吟詠コンクール決勝大会」に四国地区代表として出場しました。

今回の出吟題「三樹の酒亭に遊ぶ」は、詩心表現が大変難しかったため、徳田先生からは「素読を何度も繰り返すこと」、「低音の言葉をしつかり吟じること」等のアドバイスを受けて、日々練習に励んで参りました。

しかし、大会一ヶ月前に、自分の不注意から右腕を骨折し、万全の体調で挑むことが出来なくなりました。また、大会の一週間前に届いたプログラムを確認すると、なんと一般二部の一番目の出吟順でした。

骨折に続いて更に精神的にも落ち込みました。このような心境の中、出発前、先生に三角巾をした状態での立ち振る舞い・態度等について、電話でご相談させていただきました。先生からは、態度のアドバイ

スの他に、「出吟順が一番で気持ちの持ち方が大変でしょうが、臥風流吟詩舞道大会で発表した壮行吟のように、自信を持って精一杯思いっきり吟じてくれば良いです」と励ましのお言葉を頂き、その言葉が心の支えとなり、全国大会に挑むことが出来ました。

大会本番は、トップバッターの重庄と緊張で、第一声が弱く出てしまいました。このままでは駄目だと瞬時に気を引き締め直し、最後まで前へ前へと発声することに努めました。

大会での吟詠を振り返ってみれば、反省点もありますが、全国五位入賞の成績をなんとか納めることができました。嬉しく思っております。来年度も引き続き先生のご指導を受け、全国大会での更なる上位入賞を目指して日々練習に励んでいきたいと思っております。



東原 恵

令和七年度 全国剣詩舞コンクール 香川県予選大会

昨年五月十八日高松国分寺ホールに於いて、香川県予選大会が開催されました。

【剣舞・幼年の部】

優勝 橋本 琴音(孝風)

第三位 青木 奏真(孝風)

【剣舞・少年の部】

準優勝 橋本 百恵(孝風)

【剣舞・青年の部】

優勝 橋本 真希(孝風)

【剣舞・一般三部】

優勝 井上 良一(綾南)

準優勝 倉元 豊(志度)

令和七年度 全国剣詩舞コンクール 四国地区大会

昨年六月二十九日、内子共生館に於いて、四国地区大会が開催されました。

【剣舞・幼年の部】

優勝 橋本 琴音(孝風)
第三位 青木 奏真(孝風)

【剣舞・少年の部】

準優勝 橋本 百恵(孝風)

【剣舞・青年の部】

準優勝 橋本 真希(孝風)

令和七年度 全国剣詩舞コンクール 決勝大会

昨年九月二十三日、兵庫県アクリエ姫路に於いて開催され幼年の部で橋本琴音さんが入賞しました。おめでとうございます。

【剣舞・幼年の部】

第三位 橋本 琴音(孝風)



第三位
橋本 琴音

令和七年度 香川県 吟詠剣詩舞選手権大会

昨年七月二十日、三豊市市民交流センターに、東・中・西讃連盟での予選を勝ちぬかれた百十五名が参加して県吟詠剣詩舞選手権大会が行われ、各部門の入賞者が決定しました。

【吟詠二部】

準優勝 鈴木 幹男(寿風)

第三位 西岡 くに子(本山)

入賞 古川シズ子(綾南陶)、定國

浩(英風)、廣瀬恵子(英風)、玉川

壽美子(志度)、藤井チナコ(悠風)、

堀井勲(津田)、細川節子(志度)、

小竹勲(玉藻)、小田孝子(寿風)、

植松幸子(寿風)、小河聖(悠風)、

堀田千賀子(満濃)

出吟順



準優勝
鈴木 幹男

第三位
西岡 くに子

【吟詠一部】

優勝 佐々木 政彦(牟礼)

準優勝 松川 吉伸(四電)

入賞 浦麻紀(寿風)、木太和代(仏生山)、橋本真希(孝風)、濱野敬子(孝風)、小泉眞砂子(綾南)

出吟順



準優勝 松川 吉伸

優勝 佐々木 政彦

【剣舞の部】

優勝 橋本 真希(孝風)

準優勝 井上 良一(綾南)

第三位 定國 美知子(英風)

第62回 四国吟詠剣詩舞 選手権大会

昨年十月二十二日、高知県佐川町桜座に於いて四国吟詠剣詩舞選手権大会が行われました。臥風流会

員の成績は次のとおりでした。

【吟詠の部】

入賞 松川 天風(四電)

【剣舞の部】

優勝 橋本 真希(孝風)

第三位 井上 良一(綾南)

かがわ文化芸術祭二〇二五 高松市芸術文化活動 吟剣詩舞道大会

昨年十一月二十三日、さぬき市長尾公民館に於いて高松市文化協会主催の吟剣詩舞道大会が開催されました。

臥風流会員の成績は次のとおりでした。

【第二部】(70歳以上)

優勝 (高松市長賞) 廣瀬 恵子(英風)

準優勝 (高松市市議会議長賞) 池田 武勇(仏生山)

入賞 浅井能延(寿風)、宮本修(寿風)、木太和代(仏生山)、川田道子(寿風)、玉木一浩(長尾)、鎌田保(信風)、小竹勲(玉藻)、溝川鈴子(孝風)、植松幸子(寿風)、田村祐二(仏生山)、中村廣助(香南)

(町)、山野緑(寿風)、森博子(英風)、國井陽子(鶴尾)、定國浩(英風)

出吟順



高松市市議会議長賞 池田 武勇

高松市長賞 廣瀬 恵子

【第一部】(69歳以下)

優勝 (香川県知事賞) 橋本 真希(孝風)

準優勝 児玉 英雄(長尾)

第三位 片山 辰夫(英風)



準優勝 児玉 英雄

香川県知事賞 橋本 真希

第三位 片山 辰夫

日本コロムビア 全国吟詠コンクール 香川地区予選大会

日本コロムビア香川県予選大会が九月二十八日、高松市のホテルマリンパレスさぬきにて行われました。

審査員に日本コロムビア吟音会副会長落合克篤先生(北海道)、理事橋本暢時先生(栃木)、名誉参事柴沼幸府先生(茨木)の三名の先生方をお迎えして催されました。

本年度は総数百二名の方の参加があり白熱した予選大会となりました。入賞者は次のとおりです。

【第一部】(中学生まで)

優勝 寺竹 陽菜(英風)



優勝 寺竹 陽菜

【第三部】(51歳〜75歳)

優勝 木太 和代(仏生山)

準優勝 松尾 祐子(寿風)

第三位 松川 吉伸(四電)
 敢闘賞 大西 博子(本山)
 入賞 佐々木政彦(牟礼)、黒島

ひとみ(三観)、藤田美貴子(鶴風)、
 青木純子(孝風)、山本郁代(玉藻)、
 下川邦夫(三観)、上原孝子(仏生
 山)、濱野敬子(孝風) 出吟順



準優勝 松尾 祐子
 優勝 木太 和代
 第三位 松川 吉伸

【第四部】(76歳以上)

優勝 西岡 くに子(本山)
 準優勝 浅井 能延(寿風)
 第三位 宮本 修(寿風)
 敢闘賞 大西 佳代子(寿風)
 入賞 古川シズ子(綾南陶)、植松
 幸子(寿風)、三野波留子(牟礼)、納
 田恭子(英風)、今瀧幸子(満濃)、定
 國浩(英風)、村主房子(寿風)、竹

内マチ子(満濃)、菅原美千子(綾
 南陶)、山本初子(満濃)、堀井勲(津
 田)、小竹勲(玉藻)、田中加代子(英
 風)、吉中良子(寿風)、川田美也子
 (仏生山)、鎌田保(信風)、池田武
 勇(仏生山)、浜崎清美(英風)、國
 井陽子(鶴尾)、柏野和美(綾南陶) 出吟順



準優勝 浅井 能延
 優勝 西岡 くに子
 第三位 宮本 修

【第五部】

優勝 鍛冶田 智育(四電)



優勝 鍛冶田 智育

次回予選大会は令和八年九月二
 十七日(日)マリンパレスさぬきを

予定しております。

日本コロムビア
 全国吟詠コンクール
 決勝大会

昨年十二月七日大阪市のクレオ
 大阪中央ホールにて、全国より百
 三十四名の代表が集まり競い合
 いました。臥風流からは次の三名が
 出場しました。

一部 寺竹陽菜(英風)
 三部 木太和代(仏生山)
 四部 西岡くに子(本山)
 入賞 西岡 くに子(本山)

県総連主催
 香川県吟剣詩舞道
 秋季大会

昨年十月十二日(日)善通寺市民
 会館に於いて十チームにより吟吟
 コンクールが行われ優勝から第三
 位まで臥風流のメンバーが占めま
 した。

優勝 晴風友の会
 準優勝 英風吟詠会
 第三位 寿風吟詠会



優勝 晴風友の会
 左から 野田湘風、宮武明風、安藤鶴風、大西博風、藤田美風
 (本山) (本山) (鶴風) (本山) (鶴風)

第五十五回
 全国吟剣詩舞道大会
 全国合吟コンクール

令和七年十一月十一日
 日本武道館
 準優勝 臥風流吟詠会本部女子
 入賞 香川県吟剣詩舞道西讃連
 盟女子

香川県吟剣詩舞道総連盟
 男子



全国吟詠合吟コンクール 準優勝随同行記

事務局長 久保田 章風

この度、第五十五回全国吟剣詩舞道大会合吟コンクールに於いて、臥風流吟詠会本部女子が栄えある準優勝に輝き、また香川県吟剣詩舞道総連盟男子も見事入賞されました。ここに随行記をもって、出発から大会本番、そして帰路に至るまでの経過を記録し、支えてくださった全ての方々への深甚なる感謝の意を表するものです。

十一月十日正午高松空港に参加者全員笑顔が揃う。定刻の十三時二十五分JAL四八〇便は高松空港を離陸、美しい瀬戸内海の島々を眼下に見ながら、やがて関東上空に近づくと青く澄み渡る空に真白の雪を頂く富士山が窓に飛び込んできた。

真に美しい。正に縁起の良いこととなった。機上においても、心はずでに大会の舞台に向けて整えられておりました。

飛行機は定刻の十四時四十分

羽田空港に到着、人員確認後バスでの移動となる。

羽田空港到着後、我々は日本武道館へ向かい車窓より荘厳な館外の光景を拝観いたしました。その後、靖国神社に参拝し神前で心身を万全に整え吟詠の奉納をし翌日の大会の成功を祈念しました。

前日の準備・リハーサルでは、徳田寿風会長は、会場全体の設営状況を確認し舞台の進行確認と参加者の動線チェックにあたり、必要な指示を適宜出され円滑な運営にご尽力されました。大森英風先生は、本番に備え舞台上の立ち位置確認、道具の配置などを丹念に行い、万全の準備を整えました。明けて、十一月十一日午前七時

五十五分に宿泊ホテルグランドシティを出発し、日本武道館に到着。駐車場には既に全国各地からのバス数十台が並び会場周辺のあらゆるこちらに各チームが整列して発声練習が始まっている。午前八時四十分開場となり団体指定席に着席しました。

午前九時三十分、財団法人日本吟剣詩舞振興会副会長徳田寿風先

生の開会のことばにより、令和七年度全国吟詠合吟コンクールの幕が切って落とされました。

審査は、財団副会長徳田寿風審査委員長の合図により始まりました。合吟のトップは東京の詩吟墨水流墨水会女子である。続いて愛知、東京、神奈川と続く。我チームは三十番の女子チーム、五十一番の男子チームであり、観客席で他チームの吟詠に耳を傾ける。

競吟も進み、司会者に三十番が告げられ臥風流チームが舞台に登場する。伴奏が流れリーダーの村江風さんが第一節を吟じ間髪を入れず全員の合吟となり、静かな館内に素晴らしい吟声が響き審査員の先生方を魅了する。

男子チームもリーダーの草薙賢風さんが第一節を吟じ合吟となりました。全員が存分に力を発揮し、よく頑張り感銘を受けました。

思えば、参加者募集から始まり六月二十日の結団式、五回の合同練習、八月の吟剣詩舞道大会など機会ある都度出吟し合吟練習を積み重ねこの間、欠席者もほとんどなく熱心に練習をしてきました。

更に、これらの合同練習には全
て徳田寿風会長、大森英風先生が
付き、微に入り細に入り厳しいご
指導に、全員が応え努力した結果
であると思います。

合吟発表を終え、客席に帰った
選手の皆さんの顔は晴れやかであ
り、後は入賞発表を楽しみに待つ
のみである。

舞台では、合吟コンクールが終
わり、今年の全国吟詠・剣詩舞コ
ンクールの優勝詩舞が繰り広げら
れている。幼年、少年、青年、一
般の部と全国優勝者の方は素晴ら
しかったです。

午後に入り式典が始まり、国歌
斉唱に続き、沼崎富会長挨拶、来
賓に日本財団会長尾形武寿氏が、
そしてNHK早川竜彦氏が祝辞を
述べられました。また、本年度の
吟剣詩舞対象者表彰や少壮吟士の
表彰が行われ式典は終了しました。

続いて、記念特別企画「全国名
流吟剣詩舞の部」と題して、財団
役員や全国の少壮吟士、剣詩舞の
方々によって大きな舞台一杯に演
技が次々に披露され観客を魅了し
ました。徳田寿風会長、大森英風

先生の吟詠も大変素晴らしく、感
動いたしました。

待ちに待った合吟コンクール入
賞団体の発表である。出場団体五
十一チームの各代表二名が舞台上
並び静寂と緊張の一時が流れる。
やがて出場順に入賞団体二十五チ
ームの番号が発表され、電光掲示
板にもその番号が表示されました。

入賞団体発表と表彰においては、
横山公風・草薙賢風・松原綾風・
中村江風さんがステージにて受賞
し、会場は歓喜に溢れておりまし
た。

その後、沼崎富会長が、白い封
筒より紙片を取り出し、準優勝、
臥風流吟詠会本部女子と読み上げ、
その声が終らない間に歓声が沸き
上がりました。

この瞬間、参加者一同は深い感
動に包まれ喜びと誇りが心中に満
ち溢れました。

これもひとえに、日頃よりご指
導賜りました、徳田寿風会長、大
森英風先生、共に励んでくださっ
た仲間の絶大なるご支援の賜物で
ございます。

最後は、笹川良一作「吟剣詩舞

道讃歌」の大合吟である。舞台上
は出演者全員が並び、吟声が武道
館一杯に響き渡り、大会は終了し
ました。

十一日の夜は、参加者一同は無
事に宿舎に戻り、ホテルにて華や
かで心温まる祝賀会となり、参加
者一同、最高の夜を過ごすことが
できました。

祝賀会で一人ひとりに、大森英
風先生より銀メダルを首に掛けて
貰い、改めて感激し喜びもひとし
おでありました。

そして祝杯を上げ賑やかな時間
を過ごし、苦しかった合同練習の
ことも今は忘れ、徳田寿風会長、
大森英風先生に感謝するばかりで
す。

祝賀会の席上では、女子の記念
集合写真を撮影し、皆さんの笑顔
が光り輝く思い出深い一夜になり
ました。

大会翌日、十一月十二日午前九
時宿舎ホテルグラウンドシティを出
発し、浅草寺へ参拝し、大会の結
果報告とお礼参りを行いました。

参拝後には、全員で記念集合写真
を撮影し、感謝と達成の喜びを形

に残しました。

その後、羽田空港にて徳田寿風
会長と合流し、十五時発のJAL
四八三便で帰途に着きました。

飛行中、眼下に望む富士山の壮
麗な景観に感動し、最後まで心に
刻まれ無事に全行程を終えること
ができました。

その後、解散式を行い、舞台上
の余韻と達成感に浸りつつ、今後
の研鑽への決意を新たに致しまし
た。

今回の栄誉は、我々の不断的精
進の結晶であると同時に、臥風流
の伝統を次世代に伝え、さらに高
みを目指す糧となるものでござい
ます。今後も研鑽を重ね、一層の
精進を誓う所存でございます。

改めて、準優勝した女子チーム、
入賞された男子チームの皆さんに、
「素晴らしい感動をありがとうございました」
心より深甚なるお礼を申し上げます。

全国合吟コンクール出場チーム

(臥風流吟詠会本部女子)

〔母を奉じて嵐山に遊ぶ〕

(7・7)

・中村 廣助
 ・大野 勝風
 ・立川 龍風
 ・飯田 將風
 ・岩田 雅風
 ・山地 信風
 ・草薙 賢風
 ・尾松 隆風
 ・横山 公風
 ・堀井 勲風
 ・佐々木政風
 ・小竹 勲風
 ・鈴木 幹風
 ・浅井 延風
 ・横田 香風
 ・宮本 舟風
 ・加内 臥浩

全国合吟コンクール出場チーム
 (香川県吟剣詩舞道総連盟)
 男子
 [平泉懐古] (続2・13)

・大森 英風
 ・横倉 政風
 ・中村 江風
 ・大西 博風
 ・住田 春風
 ・廣瀬 恵風
 ・飯田 芳風
 ・藤田 美風
 ・木太 和風
 ・藤本 紫風
 ・山野 臥緑
 ・松尾 臥祐
 ・湯井 克子
 ・野田 湘風
 ・松原 綾風
 ・森 賀風
 ・青木 純風
 ・萱原 美風
 ・谷本 桃風
 ・小泉 眞風
 ・三野 春風
 ・橋本 眞風
 ・納田 恭風
 ・川股 臥代
 ・濱野 敬子



東讃地区だより

通信員 定國 伯風

●東讃連盟吟詠コンクール大会

昨年二月二十二日(土)、東讃連盟の六年度最後の行事として、高松国分寺ホールに於いて、一〇七名が参加して開催されました。寒空の下ではありましたが競吟、自由吟詠が繰り広げられ熱のこもった大会となりました。

【第二部】(50歳～69歳)

優勝 浦 麻紀(寿風)
準優勝 小泉 眞砂子(綾南)
入賞 立川正史(寿風)、横田聡(綾南)、片山辰夫(英風) 出吟順



準優勝 小泉 眞砂子
優勝 浦 麻紀

【第三部】(70歳～79歳)

優勝 小田 孝子(寿風)
準優勝 山本 貴子(満濃)
入賞 今瀧幸子(満濃)、定國美知子(英風)、廣瀬恵子(英風)、萱原美千子(綾南陶)、清川芳助(寿風)、黒川千恵美(寿風)、吉中良子(寿風)、宮本修(寿風)、細川節子(志度)、五嶋辰男(下笠居)、三野波留子(牟礼)、木太和代(仏生山)、森博子(英風)、青木純子(孝風)、川田道子(寿風)、山本初子(満濃)、小河聖(悠風)、植松幸子(寿風) 出吟順



準優勝 山本 貴子
優勝 小田 孝子

【第四部】(80歳以上)

優勝 小竹 勲(玉藻)
準優勝 大野 利勝(寿風)
第三位 藤川 美代子(悠風)
入賞 北原順子(信風)、竹内マチ子(満濃)、古川シズ子(綾南陶)、

鎌田保(信風)、園田公子(寿風)、中川利行(相愛) 出吟順



準優勝 大野 利勝
優勝 小竹 勲
第三位 藤川 美代子

●香川県吟詠選手権東讃予選大会

昨年六月十五日、高松国分寺ホールに於いて九十三名が参加して熱吟が繰り広げられ、入賞者は県大会への出吟の運びとなりました。

【第一部】(74歳以下)

優勝 浦 麻紀(寿風)
準優勝 松川 吉伸(四電)
第三位 木太 和代(仏生山)
入賞 井澤幸恵(寿風)、立川正史(寿風)、東原誠(仏生山)、佐々木政彦(牟礼)、横田聡(綾南)、青木純子(孝風)、藤本由紀子(寿風)、小泉眞砂子(綾南)、濱野敬子(孝風)、橋本真希(孝風)、山本

郁代(玉藻)、鍛冶田智育(四電) 出吟順



準優勝 松川 吉伸
優勝 浦 麻紀
第三位 木太 和代

【第二部】(75歳以上)

優勝 小田 孝子(寿風)
準優勝 鈴木 幹男(寿風)
入賞 植松幸子(寿風)、玉川壽美子(志度)、小河聖(悠風)、鎌田保(信風)、大野利勝(寿風)、浜崎清美(英風)、小竹勲(玉藻)、片岡秀子(寿風)、中村廣助(香南町)、吉中良子(寿風)、藤井チナコ(悠風)、廣瀬恵子(英風)、田村祐二(仏生山)、山本初子(満濃)、堀田千賀子(満濃)、堀井勲(津田)、森啓子(綾南)、山本貴子(満濃)、定國浩(英風)、園田公子(寿風)、北原順子(信風)、三野波留子(牟

礼)、森博子(英風)、古川シズ子(綾南陶)、三好美也子(簡保)、井上律子(玉藻)、納田恭子(英風)、國井陽子(鶴尾)、山野緑(寿風)、細川節子(志度) 出吟順



準優勝 鈴木 幹男
優勝 小田 孝子

●東讃連盟寿大学吟詠詩舞道大会

昨年八月十七日(日)、連日の猛暑にも負けず延べ百十九組の皆様が参加して、高松国分寺ホールに於いて開催されました。吟詠コンクールの際は競吟が、吟詠発表の部では歌謡吟詠・和歌・絶句と熱吟が続きました。剣詩舞発表の部では剣舞・詩舞・群舞が舞台せましと熱演されました。

【吟詠・第一部】(79歳以下)

優勝 小泉 眞砂子(綾南)
準優勝 松尾 祐子(寿風)
第三位 木太 和代(仏生山)
入賞 濱野敬子(孝風)、青木純

子(孝風)、細川節子(志度)、山本郁代(玉藻)、田村祐二(仏生山)、森博子(英風)、浜崎清美(英風)、定國浩(英風)、國井陽子(鶴尾)、廣瀬恵子(英風)、森啓子(綾南)、五嶋辰男(下笠居)、立川正史(寿風)、横倉政代(寿風) 出吟順



準優勝 松尾 祐子
優勝 小泉 眞砂子
第三位 木太 和代

【吟詠・第二部】(80歳以上)

優勝 小竹 勲(玉藻)
準優勝 村主 房子(寿風)
第三位 三野 波留子(牟礼)
入賞 堀田千賀子(満濃)、萱原美千子(綾南陶)、大野利勝(寿風)、今瀧幸子(満濃)、竹内マチ子(満濃)、古川シズ子(綾南陶)、池田武勇(仏生山)、片岡秀子(寿風)、庵原修(孝風) 出吟順



準優勝 村主 房子
優勝 小竹 勲
第三位 三野 波留子

中讃地区だより

通信員 飯田 將風

●令和七年度 中讃班郊外研修会

四月二十日 まんのう町四条公民館に於いて満濃吟詠会のお世話で開催されました。

無級から準師範までの九名が挑戦し、日頃の練習成果を発揮されて会場は活気に包まれました。

そして、アドバイザーの先生方から吟詠前・吟詠上の心構えや注意点について指導を受け、合格への自信が果たすようでした。

休憩後、剣詩舞や師範以上の吟詠など五十四名が参加されました。終わりに、横山公風先生から激励と参加者へのお礼で閉会しました。

●令和七年度 中讃連盟吟士権者決定大会
五月十一日 坂出市勤労福祉センターに於いて開催されました。吟詠と剣詩舞に会員七十七名の参加があり、審査吟詠には第一部(六十九歳以下)一名・第二部(七十歳以上)十二名・第三部(八十歳以上)十三名、合わせて二十六名が出場しました。

少数ながら熱戦が展開され臥風流会員の成績は次のとおりです。

【第三部】(80歳以上)

準優勝 濱路 白風(飯山)



優勝 濱路 白風

そして、交流吟剣詩舞では子供たちの熱演に盛大な拍手が送られ会場を大いに盛り上げました。

●令和七年度

香川県吟詠選手権中讃地区 予選吟詠大会

六月八日 坂出市勤労福祉センターに於いて開催されました。

本大会は、各流派から吟剣詩舞に六十五名の参加を得、審査吟詠には三十六名が出場しました。

そして七月二十日に予定されている「香川県吟詠選手権大会」に向けて熱戦が展開されました。

結果、二十六名が入賞し、うち臥風流関係者は三名でした。

【第二部】(75歳以上)

入賞 大野忠由(昇風)、御厨敏

江(春日)、荒井進(昇風) 出吟順

コンクールの後は、交流吟詠、剣詩舞を鑑賞し大会を楽しみました。

●第十五回

中讃連盟吟詠詩舞道祭

八月二十日 坂出市民ホールに於いて、猛暑の中盛大に開催されました。

始めに今年度の中讃連盟「永年功労者表彰」が行われ(五名)、臥風流では、春日吟詠会の御厨蘭風氏が表彰されました。

次に、絶句・律詩(独吟・合吟・連吟)と歌謡吟詠そして、幼少年を含む吟剣詩舞、執行部による企画吟詠(讃岐路の旅・その2)な

ど多彩な演目で「祭」の雰囲気で大いに楽しみました。



飯山・春日吟詠会の合吟

最後に、ゲストの徳田寿風先

生・大森英風先生をお迎えして、「吟士先生との交流の舞」や英風

愛吟集より名槍日本号ほか絶句三題、徳田寿風先生には構成吟詠

「源平盛衰記」を熱演され、会場は大いに盛り上がりました。

●第三十七回

中讃連盟律詩吟剣詩舞道大会

十一月三十日 坂出市勤労福祉センターに於いて、今年度最終の大会が六十六組の参加を得て開催

されました。

演目は、「律詩」の独吟三十一番、連吟四番、歌謡吟詠五番そして「絶句」の独吟十四番、合吟二

番、剣詩舞十番と多彩なプログラム内容となったが、会場は充実感と満足感で閉会しました。

今後も益々高齢化と会員の減少が進む中、大会の運営についての工夫など多くの課題があるが、「律詩大会」は存続していきたいと思

西讃地区だより

通信員 安藤 鶴風

四月五日 西讃連盟理事会(総会

兼)三豊市改善センター

すべて執行部で決定、理事会は報告のみ

四月十三日 西讃連盟吟剣詩舞道

大会 三豊交流センター

審査吟の部

【76歳以上の部】

優勝 西岡 くに子(本山)

構成吟

山本・三観吟詠会によるスライ

ドを使つての「平家物語」を発表。あと独吟、合吟、剣詩舞などが行われました。

六月二十二日 香川県吟剣詩舞道選手権西讃予選大会 三豊交流センター

【76歳以上の部】

入賞 西岡くに子(本山)、黒島ひ

とみ(三観)、大西節子(山本)、岩田

(雅芳(桑山)、鈴木サツキ(鶴風)

【75歳以下の部】

入賞 藤田 美貴子(鶴風)

以上六名が県大会に出場を決め

ました。

十一月三日 観音寺市民会館始め

各地区の文化祭等が開かれました。

三豊市は会場のマリノウエーブが改装工事の為七年度の発表は八年

二月十四日に開催の予定です。

十一月十五日 西讃連盟吟剣詩舞

道祭 三豊市交流センター

昨年もご来賓に徳田寿風会長と大森英風先生のご臨席を賜り開催

されました。各流派、独吟・合吟・

律詩・歌謡吟詠・剣詩舞などが有

先の全国合吟大会で入賞した西讃

連盟女子の発表がありました。

最後は、大森英風先生より笑顔

倉敷地区だより

通信員 杉村 幸風

トークの構成吟「大森英風愛吟集より」続いて徳田寿風会長の構成吟「源平の嵐(盛者必衰)」の迫力ある玲瓏とした声に会場は咳一つ無く聴き入っていました。お二人の先生の舞台は西讃連盟一同が毎年楽しみにしております。

初めに、昨年五月二十二日山本会長がご逝去されました。あまりにも突然の知らせで、会員一同言葉が発することも出きませんでした。取り急ぎお悔みに会長宅へ集まり手を合わせお線香をあげさせてもらいました。

二年前、大西譲風先生がご逝去され悲しみが癒え始めたばかりでしたので、この先のことを考えるに皆、動揺を隠せませんでした。大西先生亡き後、代表者として活動されている森康風先生を会長にとの声が全員一致で決まり、森康風会長の下、頑張っております。

二月二日 徳田寿風会長香川県文

化功労者表彰祝賀会へ二名が祝意を伝え、四名が出席改めて会長の経歴などを巡り感嘆の声を漏らす。

二月七日 菊水流剣詩舞道家元藤上南山先生がご逝去され、山本前会長が葬儀へ参列される。

二月十六日 倉敷市児島公民館祭開催。八名が参加する。

和歌・絶句・歌謡吟・合吟ありで賑わかすことが出来ました。

三月十一日 倉敷市児島民主会館祭開催。六名が参加する。

九十七歳の最高齢の吟者に対し驚きの大きな拍手がわきました。終了後、会館の一室をお借りし食事会を開催。十二名の参加で、和気あいあいと楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



97歳 風 聡 小仙

三月三十日 愛国詩吟総連盟西部地区予選開催、四名が出場。

森、戸田、杉村の三名が予選を通過。

四月十三日 鷺山吟詠会総会開催

今回の課題吟「児島高德桜樹に書するの図に題す」へ九名が挑戦するなどで大盛況でした。

五月十一日 臥風流段級審査会四段で入江智子一名が受審合格。

五月十一日 岡山県大会開催。四名参加。シニアの部 九位片山清人、一般三部 十位杉村さよ子でした。

五月二十四日 第一回自由吟詠・師範研修会開催。二名参加。

自由吟詠へ森と杉村が出吟する。

六月一日 愛国詩吟総連盟岡山大会開催。三名参加。森康高 入賞。

七月二十七日 日本伝統文化吟友会中国大会、七名参加。

短歌の部で片山清人が入賞。

八月三十一日 臥風流吟詩舞道大会開催。九名参加。

長寿表彰、傘寿で土岐晴風・米寿で白神榮風のお二人が表彰される。自由合吟で男子三名・女子六名が出吟する。

九月十五日 岡山県寿吟剣詩舞道大会開催。二名参加。

十一月二日 鷺山吟詠会文化祭

初めに亡き山本前会長を偲び全員で黙禱後「追悼詞」を吟ずる。

少ない会員での文化祭ではありましたが、亡き会長に安心して頂けるよう、一人三曲、四曲と頑張り今回の課題吟「山中の月」にも九名が挑戦され、楽しい文化祭を開催することが出来ました。



鷺山吟詠会一同

十一月十六日 臥風流全員研修会開催。四名参加。

十一月二十九日 第三回自由吟詠師範研修会開催。二名参加。

自由吟詠へ森と杉村が出吟する。

十二月七日 第三十三回倉敷市文化祭中心行事 吟剣詩舞道祭が芸文館にて開催。合吟・企画構成吟

へ九名が参加。一年間の行事が全て終了し、やはり山本前会長が逝去されたことはとても残念で、悲しいことでした。しかしこのままではいけないと、森康風新会長の下、鷺山吟詠会を皆で引っ張っていきたいと思っております。どうぞこれからも、鷺山吟詠会を宜しくお願い致します。

第四十九回 全国高等学校総合文化祭 かがわ総文祭2025 吟詠剣詩舞部門

昨年七月二十七日(日)九時から三木町文化交流プラザメタホールに於いて全国高等学校総合文化祭・吟詠剣詩舞部門の開会式が始まりました。

開会の言葉に続き、全国吟詠剣詩舞部門専門部会長を始め大勢の挨拶をいただきました。その後、参加者全員で朱熹作「偶成」の大合吟が行われ、開会式を締めくくりました。

続いて発表本番が開始しました。最初の発表、大分県は書道吟の発

表でした。ほぼ舞台一面に繰り広げられる二枚の大判書道用紙に、吟詠に合わせたリズムカルな書士の動作が重なり、あつという間に広瀬淡窓作「彦山」の詩文が見事に書きあげられる様子は圧巻でした。大分県は続いて華道吟も披露しました。参加県内で唯一の華道吟の演目でした。他にも徳島県、愛媛県が書道吟を演目に取り入れていました。普段大人の発表大会では、なかなかお目にかかれない演目は、高校生の全国大会ならではの見どころだと感じました。演目を見れば、かがわで開催される総文祭ということで「舟八島を過ぐ」「那須与一宗高」「後夜仏法僧鳥を聞く」といった、香川に縁の深い演目を取り入れた県が多かったです。高校に入学してから吟詠剣詩舞に初めて取り組んだと思われる、初々しい演技から、幼少年から鍛え上げられた、安定した演技を披露してくる生徒まで、幅広い内容の演技発表でした。その中で取り分け目を引いたのが、福岡県合同チーム、福井県吟詠剣詩舞部会の演技でした。福岡県は剣詩舞主体の演技構

成をしており、最後の演目「大和唄」は、舞士全員の動きがきれいにシンクロされて、力強さに溢れた見事な演技でした。福井県の演技は、棒舞「東尋坊」という演目で、長い一本の棒を自在に操り舞う、初めて見る演技が目を引きました。最後にとりを務める、香川ドリムチームの演技は、大森英風総監督の指導の成果を遺憾なく発揮し、最高の出来でした。吟詠、剣詩舞どちらをとっても文句なしの演技は、観客の感動を呼び起こしたように、知人の話によると、地元から応援に駆けつけていただいた方々の中に「感動のあまり涙ぐんでいる方が多数いましたよ」と教えてくれたほど、最高の仕上がりをを見せてくれることができました。最後まで指導をしていただいた、外部講師の大森先生、篠原先生、詩舞の振り付け指導をしていただいた川原御宗家、準備、運営に尽力していただいた専門委員の先生方、運営補助員の生徒・教員の皆さん、遠方から応援に駆けつけていただいた方々、協賛の広告を掲載していただいた臥風流を始めとする県内の吟詠・



参加者全員で朱熹作「偶成」の大合吟

剣詩舞関連団体のすべての方々へ感謝の言葉を述べたい。本当にありがとうございました。

閉会式では、徳田会長の丁寧な好評をいただき、無事すべての日程を終え、締めくくることができました。



香川県高等学校文化連盟吟詠剣詩舞部門香川ドリームチーム

令和七年度新春錬成大会
盛大に開催される

令和八年一月十日、高松国分寺ホールに於いて、香川県吟詠剣詩舞道総連盟主催の新春錬成大会が二百五十三名の参加者のもと盛大に開催されました。

最初に香川県吟詠剣詩舞道総連盟横山公風会長による令和七年度の全国大会での様々な活躍の説明があり、新しい課題吟の講習では一言も聞き漏らさず聞いてほしいとの開会の挨拶がありました。



香川県吟詠剣詩舞道総連盟 横山公風会長

第一部では令和八年度全国吟詠コンクール課題吟、十題を徳田寿風先生、大森英風先生お二人を講師としての解説と吟詠があり、大勢の受講者が録音とメモを取りながら聴き入っていました。

第二部に移り、最初に第五十五

回全国吟詠剣詩舞道大会（合吟コンクール）入賞チーム、香川県吟詠剣詩舞道西讃連盟女子二十一名、香川県吟詠剣詩舞道連盟男子二十二名、臥風流吟詠会本部女子二十二名の三チームが全国大会さながらの大合吟を披露しました。続いて第五十五回全国吟詠剣詩舞道大会（全国名流吟詠詩舞の部）では、川原霊宗水心黎明流総本部宗家とその門下が徳田寿風先生、大森英風先生の吟により「春夜洛城に笛を聞く」が舞われました。次に令和七年度全国吟詠コンクール決勝大会での幼年の部第四位の寺竹陽菜さんの吟があり、最後に全国吟詠コンクール歴代優勝者、山地信風さん、中村江風さん、草薙賢風さんの素晴らしい吟詠がありました。



寺竹 陽菜



東原 恵

第三部は少壮OG競演として、大森英風先生の（郷里『讃岐の風景』より）と、徳田寿風先生の（構成吟詠『天下布武・織田信長』が披露され会場からため息が漏れていました。最後は「和歌・新しき」を受講者全員で合唱して閉会となりました。



「和歌・新しき」の合唱

おめでとう
ございます



この度、コミュニティセンター
同好会「屋島吟詠友の会」詩吟講師
の鍛冶田洸風先生が長年にわたり、
指導者としての活動実績を認めら
れ、香川県公民館連絡協議会会長
様から感謝状を贈呈されました。



鍛冶田洸風先生

今後ますますのご活躍をお祈り
いたします。

「研修部より」①

日本語は素晴らしい

言葉は一つひとつの語を丁寧に
思いをこめて

研修部長 横山 公風

今、私たちが語っている日本語

を調べると和語が約三割、漢語が
五割、外来語と数字などの混合語
が二割となっています。詩吟は語
り物と歌物との併用物であり詩文
は語り物として、話し言葉が原則。
節が歌物として母音で詠うようにな
っています。そこで日本語の会
話のことについて考えてみました。
三割の和語が日本語のことを
教えてくれます。

日本語は単音語です。百十二音
節の語が強弱、強弱、又は弱強、弱
強と規則正しく並べられ、機関銃が
玉を撃つように口から出て意味が
つくられ、会話されています。世界
の言語の中で唯一無二と言えるほ
どの貴重なもので、英語など全て
の外国語とは根底が違う全く別物
です。しかし、現実には漢語や外来
語などが言葉の中に入っています。
これは日本人が器用にしたたかに
日本語風に取り入れ使っているだ
けで、もとは変わっていません。
私たちが使っている和語(訓読
み語)は日本列島に住み付いた三
万七千年前の先祖の人たちが使っ
ていた言葉がそのまま継承されて
いるものです。方言など違いはあ

会員異動のお知らせ

(敬称略)

(本部役員名簿令和6年7月の各員を示す)

〔脱会〕

6頁 No.15 大内吟詠会

代表者 松下 功(功風)

三月三十一日付

7頁 No.20 香川町吟詠会

代表者 川田 美佐子(紅風)

三月三十一日付

9頁 No.44 三溪吟詠会

代表者 山地 花枝(修風)

三月三十一日付

11頁 No.58 青山吟詠会

代表者 盛田 十九三(青風)

三月三十一日付

12頁 No.71 あゆみ吟詠会

樋口 徳子(徳風)

三月三十一日付

〔副会長の辞任〕

1頁 16頁 鷺山吟詠会

代表者 山本 鷺風

五月二十二日 死亡による

1頁 16頁 大内吟詠会

代表者 松下 功風

三月三十一日付 脱会による

〔監事の辞任〕

2頁 19頁 あゆみ吟詠会

樋口 徳風

三月三十一日付 脱会による

22頁 宮脇 美代子(美風・青山)

三月三十一日付 脱会による

23頁 田中 仁(仁風・満濃)

六年十二月三十日

30頁 山下 弘子(弘風・鷺山)

六月二十日付

体調不良による

32頁 三好 正幸(正風・綾南陶)

三月三十一日付

体調不良による

〔常任理事の辞任〕

1頁 17頁 鶴尾吟詠会

堀合 健風

五月二十七日付

23頁 樋口 徳子(徳風・あゆみ)

三月二十六日 死亡による

31頁 鎌田 義行(義風・昇風)

二月二十七日 死亡による

杉 喬(喬風・大内)

〔師範補の退会〕

39頁 筒井 孝子(臥孝・三溪)

三月三十一日付 脱会による

体調不良による

〔本部理事の辞任〕

1頁 段級審査

増田 砂夫(海風・綾南)

六月三十日 死亡による

25頁 大森 照美(照風・大内)

三月三十一日付 脱会による

25頁 山本 馨子(馨風・鷺山)

六月二十日付

32頁 池田 憲隆(憲風・白鳥)

一月九日付

植松 美知代(加風・悠風)

三月三十一日付

39頁 古賀 良隆(臥隆・英風)

二月二十八日付

体調不良による

2頁 会計

古賀 良隆(臥隆・英風)

二月二十八日付 退会による

27頁 宮崎 正夫(正風・綾南陶)

二月十八日 死亡による

27頁 増田 砂夫(海風・綾南)

六月三十日 死亡による

33頁 井上 トシ子(登風・相愛)

三月三十一日付 高齢による

34頁 原 健司(健風・鷺山)

六月二十日付

39頁 香川 翔海(臥翔・鶴風)

六月二十日付

一身上による

3頁 香川町吟詠会 川田 紅風

三月三十一日付 脱会による

27頁 増田 砂夫(海風・綾南)

六月三十日 死亡による

34頁 笠井 周二(周風・寿風)

三月三十一日付

40頁 加藤 充子(臥充・青山)

三月三十一日付 脱会による

3頁 青山吟詠会 盛田 青風

三月三十一日付 脱会による

26頁 堀合 正健(健風・鶴尾)

五月二十七日付

34頁 千葉県へ転居による

三月三十一日付

29頁 佐藤 依子(伶風・津田)

四月一日付

〔総範の退会〕

21頁 田淵 久子(玖風・豊中)

一月二十四日 死亡による

体調不良による

体調不良による

38頁 北 アケミ(明風・寿風)

三月三十一日付

連絡先 〒七七六一〇三二一
高松市元山町10911-9
TEL〇八七七八六七四八六九

21頁 松下 功(功風・大内)

三月三十一日付 脱会による

27頁 金光 藤子(藤風・寿風)

三月三十一日付

体調不良による

体調不良による

〔指導者の変更〕

7頁 No.26 豊中吟詠会

22頁 川田 美佐子(紅風・香川町)

三月三十一日付 脱会による

28頁 盛田 十九三(青風・青山)

体調不良による

27頁 入屋 治夫(治風・綾南陶)

三月三十一日付

田淵 玖風↓関 羨風

12頁 No.68 綾南陶吟詠会

柏野和風↓古川 静風

〔所属の変更〕

26頁 横倉 政代(政風・あゆみ)

三月三十一日付 脱会による

あゆみ吟詠会↓寿風吟詠会

33頁 大野 政敏(敏風・あゆみ)

三月三十一日付 脱会による

あゆみ吟詠会

↓国分寺まほろば吟詠会

36頁 田辺 義治(磊風・あゆみ)

三月三十一日付 脱会による

あゆみ吟詠会↓寿風吟詠会

38頁 岡本 照子(照風・あゆみ)

三月三十一日付 脱会による

あゆみ吟詠会↓寿風吟詠会

39頁 樋口 裕子(臥裕・あゆみ)

三月三十一日付 脱会による

あゆみ吟詠会↓寿風吟詠会

40頁 岡 廣子(臥廣・あゆみ)

三月三十一日付 脱会による

あゆみ吟詠会↓寿風吟詠会

〔所属・電話番号の変更〕

22頁 山地 花枝(修風・三溪)

三月三十一日付 脱会による

三溪吟詠会

↓木太中央吟詠会

T E L ○ 八 七 一 八 八 九 一 ○ 八 〇 一

T E L ○ 九 〇 一 一 五 七 九 九 三 四 一

〔郵便番号・電話番号の変更〕

38頁 赤松 徳子(徳風・相愛)

六年十二月十七日付

〒七六一一八〇二三

←

〒七六一一八〇七三

T E L ○ 八 七 一 八 六 七 一 六 五 八 一

←

T E L ○ 九 〇 一 五 一 四 〇 〇 六 八 五

〔代表者・指導者・連絡先の変更〕

9頁 No.38 鷺山吟詠会

代表者

山本 鷺風↓森 康風

指導者

山本 鷺風を削除

死亡による

連絡先

〒七一一〇九一一

倉敷市児島小川3丁目3-25

T E L ○ 八 六 一 四 七 四 一 三 四 七 四

〔指導者の変更〕

8頁 No.31 鶴尾吟詠会

水鳥 翔風を削除

六月二日付

13頁 No.76 大内丹生吟詠会

前原 洋風を削除

三月三十一日付

(本部役員名簿令和7年7月の各頁を示す)

〔総範の退会〕

17頁 福家 和子(和風・綾南陶)

十一月十四日 死亡による

〔師範の退会〕

30頁 山下 昭夫(昭風・長尾)

九月二十日 死亡による

〔師範の休会〕

29頁 佐藤 伸彦(伸風・三友)

十月三十一日付

一身上による

30頁 佐藤 秀彦(秀風・三友)

十月三十一日付

一身上による

〔連絡先の変更〕

6頁 No.17 志度吟詠会

倉元 豊↓玉川壽美子

九月五日付

体調不良による

〒七六九一二〇一

さぬき市志度583-1

T E L ○ 八 七 一 八 九 四 一 三 五 四 〇

6頁 No.31 鶴尾吟詠会

水鳥 富夫↓喜岡 真智子

十月二十五日付

体調不良による

〒七六一一八〇七二

高松市三条町498

T E L ○ 八 七 一 八 六 七 一 七 三 二 四

編集後記

今年、私は傘寿になるが、臥風流には九十歳を超えて元気に活動している会員がおられ、肖りたいものである。医食同源という言葉がある。日々バランスの取れた食事を摂取することで病気を予防したり治療につなげるとの意味である。私は毎日必ずキャベツ、ブロッコリー、トマトのサラダ。納豆。豆腐。メカブ。黒酢。キムチ。卵。牛乳。抹茶を摂取している。

後期高齢者検診を毎年受け、胃と大腸の内視鏡検査も毎年受けて、病気の早期発見をはかっている。年に四・五回は歴史紀行をしていて人生の生き甲斐としている。会員の皆様共々元気に長生きしたいものである。目指せ百歳。

普及部 浅井 延風

皆様の情報・ニュースをお待ちしております。



ウマく行きますように！ 鍛冶田洗風 制作

- 玉木 浩風
- 鎌田 鵬風
- 片山 辰風
- 田辺 磊風
- 児玉 英風